



平成25年度 果樹情報 第11号

(平成25年8月19日)



福島県農林水産部農業振興課

1 気象概況 (8月前半：果樹研究所)

8月1～3半旬の平均気温は、1半旬が22.6℃で平年より3.3℃低く、2半旬が26.8℃で平年より1.1℃高く、3半旬が27.4℃で平年より1.9℃高い状況でした。この期間の降水量は42.0mmで平年の60%でした。

2 土壌の水分状況 (8月15日現在)

果樹研究所における土壌水分 (pF値：無かん水・草生栽培りんご園) は、深さ20cmは2.9、深さ40cmは1.8、深さ60cmは2.0となっており、深さ20cmは乾燥状態となっています。

3 生育状況 (果樹研究所)

(1) もも

ア 果実肥大 (8月15日現在)

果実肥大を暦日で比較すると「ゆうぞら」は縦径が68.5mmで平年比105%、側径が70.5mmで平年比104%と平年よりやや大きい状況です。また、満開後日数による比較ではほぼ平年並みの状況です。

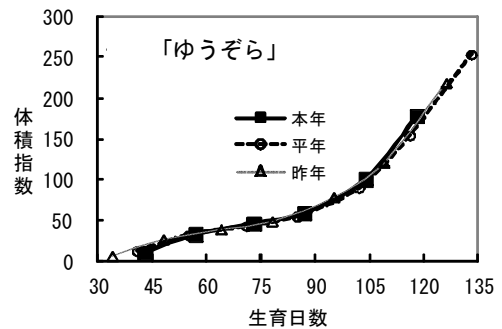


図1 ももの果実肥大 (満開後日数比較)

イ 新梢生長 (満開後116日)

「ゆうぞら」の新梢生長は、新梢長が16.3cmで平年比123%と長く、展葉数は13.8枚で平年比96%とやや少ない状況です。また、葉色 (SPAD値) は平年比103%とほぼ平年並、新梢停止は早い状況です。

ウ 中生品種の収穫期と果実品質

「あかつき」の収穫始めは8月2日、収穫盛りは8月5日で共に平年並みの状況でした。果実の大きさは279gと平年より大きく、糖度は10.9で平年より低い状況でした。

(2) なし

ア 果実肥大 (8月15日現在)

果実肥大を暦日で比較すると「幸水」は縦径が65.4mmで平年比103%、横径が83.9mmで平年比107%、「豊水」は縦径が66.2mmで平年比104%、横径が76.4mmで平年比106%と、両品種共に平年よりやや大きい状況です。また、満開後日数による比較では、「幸水」は平年より大きく、「豊水」はほぼ平年並みの状況です。

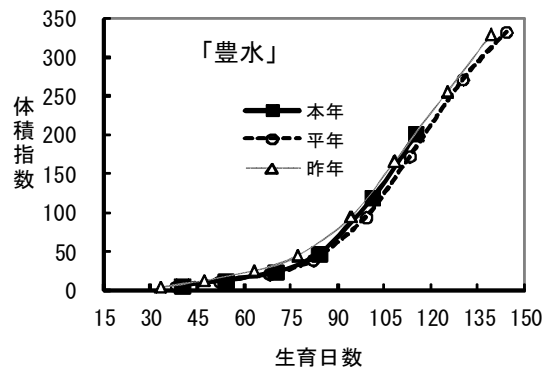
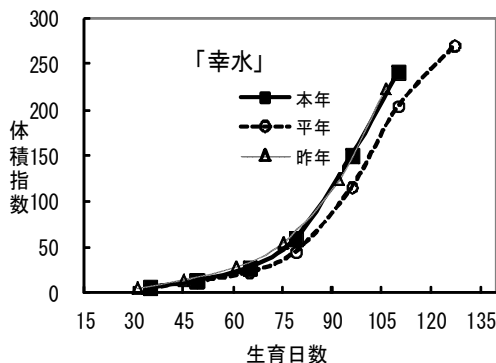


図2 なしの果実肥大 (満開後日数比較)

イ 幸水の成熟経過（満開後110日）

果実硬度が6.3ポンド、果皮中クロロフィル含量が $10.4\mu\text{g}/\text{cm}^2$ 、糖度が10.4でいずれも平年値を下回っている状況です。

果実硬度は低いものの、現時点では果肉先熟の状況ではありません。

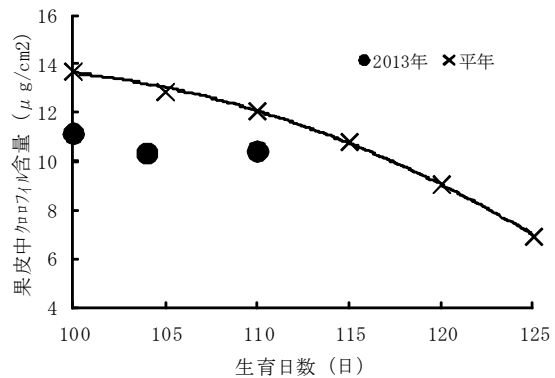
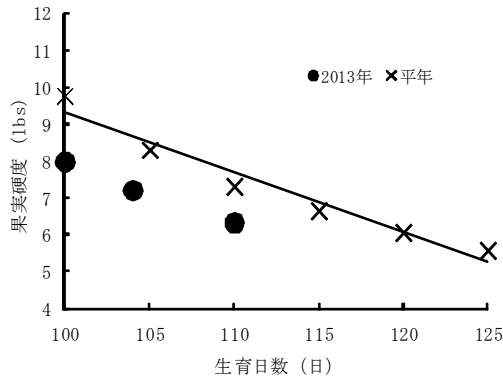


図3 生育日数と硬度の関係（幸水） 図4 生育日数と果皮中クロロフィルの関係（幸水）

ウ 収穫予測

DVRモデルによる「幸水」の収穫予測では、収穫盛期が8月31日頃で平年より2日早いと予測されます。

(3) りんご

ア 果実肥大（8月15日現在）

果実肥大を暦日で比較すると「つがる」は縦径が73.9mmで平年比104%、横径が84.8mmで平年比105%と平年よりやや大きく、「ふじ」は縦径が65.7mmで平年比101%、横径が73.9mmで平年比103%とほぼ平年並の状況です。また、満開後日数による比較では、両品種共に平年より大きい状況です。

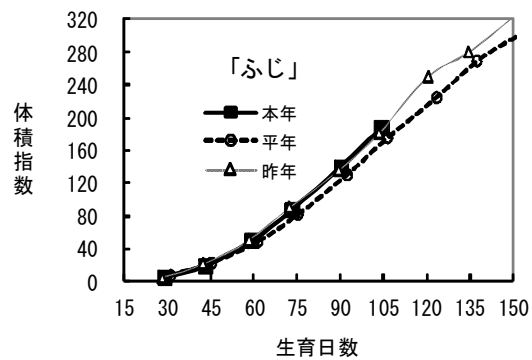
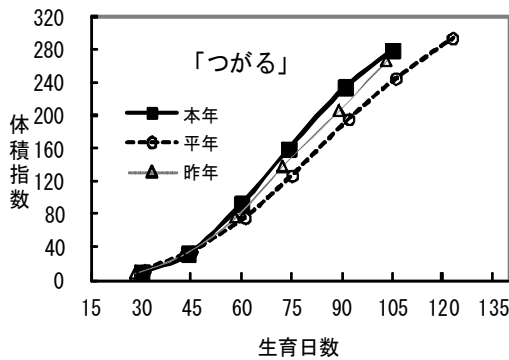


図5 りんごの果実肥大（満開後日数比較）

イ 果実の成熟状況（満開後103日）

「つがる」の果実の成熟状況は、硬度が13.4ポンド、デンプン指数は2.0、糖度は12.1、リンゴ酸は0.29%であり、平年と比較して地色のぬげがやや早く、果肉硬度がやや低い傾向となっています。

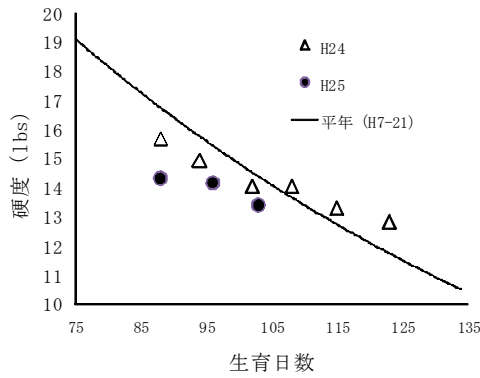


図6 「つがる」の果肉硬度の推移

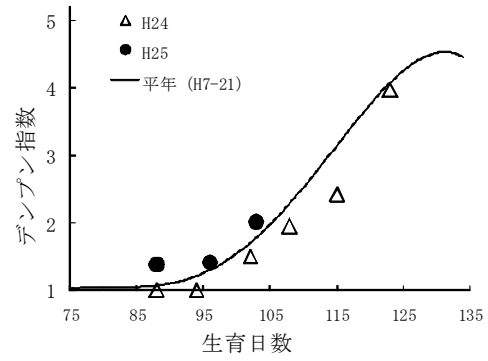


図7 「つがる」のデンプン指数の推移
※指数1 (未消失) ~ 指数5 (ほぼ消失)

(4) ぶどう

ア 「巨峰」(無核栽培)の成熟状況

8月12日現在の「巨峰」(無核栽培)の成熟状況は、糖度が15.8、果皮色が7.8、酒石酸含量が1.33%となっています。

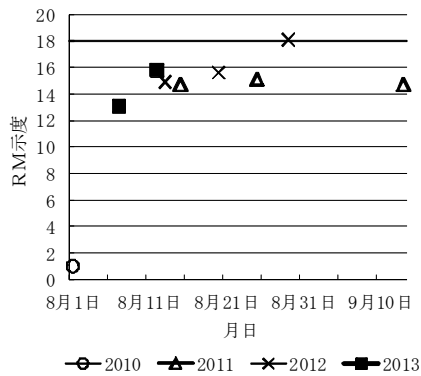


図8 「巨峰」(無核栽培)の糖度の推移

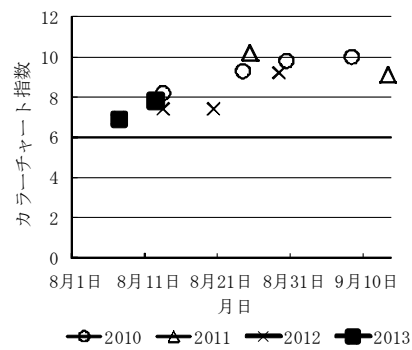


図9 「巨峰」(無核栽培)の果皮色の推移

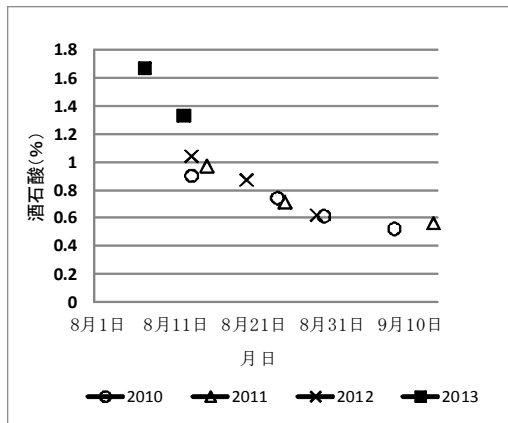


図10 「巨峰」(無核栽培)の酒石酸含量の推移

イ 「あづましずく」の収穫期と果実品質

「あづましずく」(一文字整枝型)は8月15日より収穫始めとなりました。8月12日現在の成熟状況は、糖度が16.4、果皮色が8.1、酒石酸含量が0.67%の状況でした。

表1 「あづましずく」成熟状況(8月12日)

	糖度	酒石酸(%)	カラーチャート値
8年生短梢一文字型整枝(露地)	16.4	0.67	8.1
(収穫の目安)	16.5以上	0.5以下	9.0以上

※ カラーチャート値：果実カラーチャート(ブドウ赤・紫・黒色系)

4 栽培上の留意点

(1) もも

ア 晩生種の収穫前管理と収穫

中生種までの果実品質は全般に核障害の発生が多く、日照不足や多雨の影響から着色不良と糖度低下などの品質低下が見られました。晩生種においては、核障害の発生状況により成熟期の前進が予想されますので、適期収穫に努めましょう。まもなく収穫期に入る「川中島白桃」などの晩生種については、夏季せん定、支柱立てや枝吊り、反射シートの設置等収穫前の管理を計画的に実施しましょう。

(2) なし

ア 「幸水」収穫の留意点

収穫基準は、「幸水」用カラーチャート（全農作成）の1.5～2を目安に、適期収穫に努めましょう。なお、収穫時の果実温が高いと果肉軟化を促進し芯腐れ果の発生につながりやすいので、気温の低いうちに収穫し、収穫後は涼しい場所に保管しましょう。

「幸水」は、降雨により土壌水分が急激に増加した後や収穫盛期以降は、成熟が急激に進む傾向があるので、採り遅れのないように注意しましょう。

イ 「豊水」の修正摘果

「豊水」は満開後120日（果樹研究所8月20日）頃を目安に修正摘果を実施しましょう。着果過多は休眠期の紫変色枝枯症発生の原因となるので、適正な着果量（10a当たり10,000果）を心がけましょう。

(3) りんご

ア 早生種の収穫前管理

「つがる」や「さんさ」では果面の30%程度が着色した頃から葉摘みを実施しましょう。

「さんさ」は、葉摘みが遅れると着色しにくくなるため、遅れないよう注意しましょう。気温の高い日が続くと日焼け果の発生が助長されるため、葉摘みは、日焼けの発生状態を確認しながら徐々に行いましょう。

イ 早生種の収穫

「つがる」は、今後の気温が高温で推移したり降雨が続いた場合、果実の成熟が進む可能性があるため、気象の推移に注意しながら地色の変化や果肉硬度を考慮して適期収穫を心がけましょう（果樹研究所の「つがる」（普通系）の平年の収穫始は8月29日、収穫盛は9月4日）。

(4) ぶどう

ア 適期収穫

収穫時期は品種、樹勢、房型や着房量によって異なるので、果皮色や食味（特に糖酸比）、香り等から総合的に判断し、適期収穫を心がけましょう。

イ 収穫および収穫果実の取扱い方法

収穫は果実温の低い時間帯に行うと日持ちが良いため、早朝に収穫を行いましょう。また、収穫や調整の際に果房を直接手で持つと果粉が落ちて商品性が低下するので、穂軸を持って扱きましょう。さらに、脱粒を防ぐためコンテナ内に果房を重ねず、運搬の際にはできるだけ果房が振動で揺れないようにするなど、果房の取扱いは丁寧に行いましょう。

5 病虫害防除上の留意点

(1) 病害

ア りんご褐斑病、炭疽病

果樹研究所の「ふじ」殺菌剤無防除樹における褐斑病の発病葉率は、7月下旬以降急増しています。褐斑病および炭疽病の感染、発病が増加する時期であるため防除を徹底しましょう。

イ もも灰星病

降雨があると「川中島白桃」や「ゆうぞら」等の晩生種では灰星病の感染が助長されるため、収穫まで本病の防除を徹底しましょう。薬剤は灰星病防除剤（県病虫害防除指針参照）のいずれかを、除袋後間隔が空かないよう注意して散布しましょう。なお、薬剤の使用にあ

たつては農薬使用基準（収穫前日数、使用回数）には十分注意してください。

ウ なし黒斑病

例年発病が多い園では予防散布を徹底しましょう。薬剤の使用にあたっては農薬使用基準（収穫前日数、使用回数）に注意し、特に早生種への薬剤の飛散には十分注意しましょう。

(2) 虫 害

ア モモハモグリガ

モモハモグリガ第5世代の防除適期は8月4～5半旬頃と考えられます。

本種の発生には無防除のハナモモ園や放任園などが影響していると考えられますので、無防除園における防除や放任園の伐採を行いましょう。

イ ナシヒメシンクイ

ナシヒメシンクイ第4世代の防除適期は、8月6半旬頃になると考えられます。

本種の第3世代以降はなし果実への寄生が増加するため、例年なしでの果実被害が多く、かつ近隣のもも園で芯折れ症状が多い地域では防除を徹底しましょう。

ウ モモノゴマダラノメイガ

中生種のももで被害が見られた園では、8月20日頃までに晩生種に対する防除を行いましょう。本種はかきやくりなどにも寄生するため、被害が多いもも園の近隣にかきやくり園がある場合は、これらのほ場の防除も実施しましょう。

エ リンゴコカクモンハマキ

第3世代の防除適期は平年並の9月2～4半旬頃と考えられます。密度が高い場合は収穫後も防除を実施しましょう。

オ ハダニ類

高温乾燥条件が続く場合はハダニ類の急増に注意し、要防除水準（1葉に雌成虫1頭）の密度になったら速やかに防除を行いましょう。

カ カイガラムシ類

クワコナカイガラムシの第2世代幼虫の防除適期は9月中～下旬頃になると考えられます。合成ピレスロイド剤やネオニコチノイド剤等を多用している園地では、天敵類の減少によるカイガラムシ類の増加に注意しましょう。

表2 果樹研究所におけるモモハモグリガに対する防除時期の推定
(平成25年8月14日現在)

今後の気温予測	第4世代成虫盛期	第5世代防除適期
2℃高い	8月16日	8月20日
平年並み	8月17日	8月20日
2℃低い	8月17日	8月21日

※ 演算方法は三角法による。起算日は7月17日。

病害虫の発生予察情報・防除情報

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

<http://www.pref.fukushima.jp/fappi/>
農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 技術革新支援担当 TEL 024(521)7339
(以下のURLより他の農業技術情報等をご覧ください。)

URL：http://www.ms.pref.fukushima.jp/pcp_portal/PortalServlet?DISPLAY_ID=DIRECT&NEXT_DISPLAY_ID=U000004&CONTENTS_ID=22752#gi_jyutsu_jyouchou

ふくしま新発売：以下のURLより最新の農林水産物モニタリング情報、イベント情報等をご覧ください。

URL：<http://www.new-fukushima.jp/>